



平成 29 年 10 月 13 日

各 位

会社名 株式会社 東京 衡 機
 代表者名 代表取締役会長兼社長 石川 隆一
 (コード番号 7719 東証第2部)
 問合せ先 執行役員 管理部長 石見 紀生
 (TEL. 03-5207-6760)

特別損失の発生ならびに業績予想と実績値の差異および業績予想の修正に関するお知らせ

平成 30 年 2 月期第 2 四半期連結会計期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしましたのでお知らせいたします。また、平成 29 年 4 月 14 日に公表いたしました平成 30 年 2 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じるとともに、平成 30 年 2 月期通期連結業績予想を修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の発生およびその理由

平成 29 年 7 月 6 日付「当社子会社の元役職員による不正行為に関するお知らせ」にてお知らせいたしました当社の中国連結子会社である無錫三和塑料製品有限公司の元役職員による不正行為の疑いの発覚に伴い、当該不正行為の会計的な影響額の算出、原因の究明、再発防止策の立案等を行うための調査委員会の設置、各種調査の実施、過年度決算訂正対応等に関して発生した費用を特別損失に計上いたしました。

(連結) 過年度決算訂正関連費用 58 百万円

2. 業績予想と実績値の差異

(1) 平成 30 年 2 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想と実績値の差異 (平成 29 年 3 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	2,200	40	35	25	円 銭 0 35
実績値 (B)	2,084	△254	△279	△68	△0 96
増減額 (B-A)	△116	△294	△314	△93	—
増減率	△5.3	—	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (平成 29 年 2 月期第 2 四半期)	2,631	148	129	97	円 銭 1 37

(2) 差異の理由

平成30年2月期第2四半期連結累計期間の業績につきましては、試験機事業において、受注状況は比較的に堅調に推移したものの当期間内の大口売上案件が少なかったこと、海外事業において、欧米向けのオフィス家具の需要変動により売上が伸び悩んだことに加え、元役員による不正問題が発覚した中国子会社の経営管理体制および生産体制の抜本的な立直しに時間と費用を要したことなどにより、売上高、利益ともに期初予想を大きく下回りました。なお、平成29年8月15日付「特別損益の発生に関するお知らせ」にてお知らせいたしましたとおり、平成30年2月期第1四半期連結会計期間において、中国子会社(瀋陽特可思木芸製品有限公司)の出資持分譲渡により特別利益として関係会社株式売却益292百万円を計上いたしましたので、親会社株主に帰属する四半期純利益における期初予想との差異は、営業利益および経常利益における差異よりも少なくなっております。

3. 業績予想数値の修正

(1) 平成30年2月期通期連結業績予想数値の修正(平成29年3月1日～平成30年2月28日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	5,500	260	240	170	円 銭 2 38
今回修正予想(B)	5,100	△20	△40	130	1 82
増減額(B-A)	△400	△280	△280	△40	—
増減率	△7.3	—	—	△23.5	—
(ご参考)前年同期実績 (平成29年2月期)	4,988	13	5	△49	円 銭 △0 70

(2) 修正の理由

平成30年2月期通期連結業績予想につきましては、海外事業よりも利益率の高い試験機事業およびエンジニアリング事業において、下半期後半で、売上高および利益について、上半期に比べ大幅な伸長を計画しており、それぞれの上半期における遅れを挽回できる見込みであります。海外事業において、業績の改善に向けて体制整備に取り組んでいるものの、中国子会社の業績が上半期の遅れを含め期初予想を大きく下回る見通しであることから、グループ全体では売上高、利益ともに期初予想を下回る見込みであります。

以上